

# 牛久：学校周辺に見る自然

第29号 牛久二小

2012年9月25日発行

## ＜夏の終わりの動物たち ①チョウの仲間＞

牛久二小4年2組と、校庭で「夏の終わりの生き物」の観察をしました。9/7には動物の仲間を、翌週9/14には植物のようすを観察しました。今回はその中から、チョウの仲間を紹介しましょう。



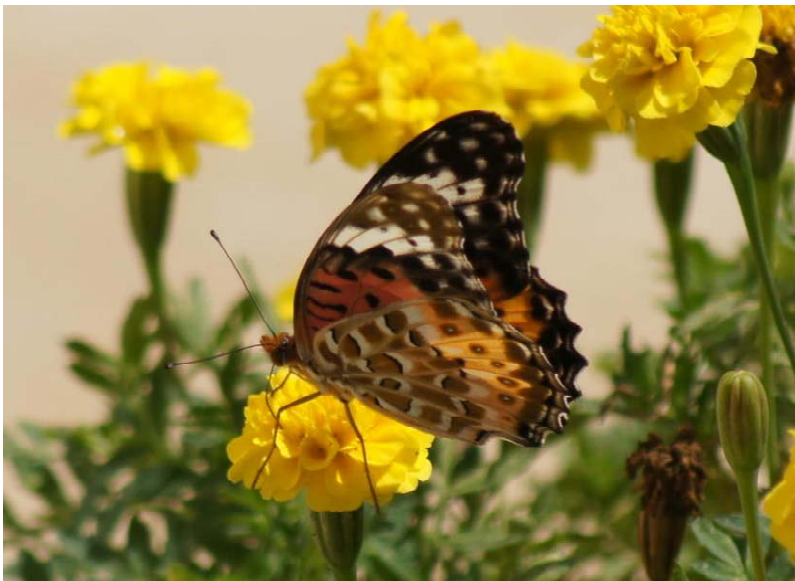
マリゴールドのみつを吸うヤマトシジミと、攻撃をしかけるオス。

授業が始まる前に、職員室前の花だんで、マリゴールドのみつを吸っているヤマトシジミのオスがいました。するとそこに別のオスがやってきて、しばらくまわりを飛んでいましたが、まったく知らんぷりでみつを吸い続けていたからか、今度は少しはなれた所から一直線で突進してきました。たまたま花をはなれて、2頭とも飛んで行ってしまいました。



同じくマリゴールドにイチモンジセセリも来ていました。はねのもようがうっすらとしか見えなくらい鱗粉（りんぷん）がとれていて、かわいそうでした。チョウの鱗粉には、雨水をはじいたり、体温調節をしたり、いろいろな役割があるようです。

マリゴールドのみつを吸うイチモンジセセリ。翅の鱗粉がとれて、うっすらとしかもようが見えない。



何度か紹介してきた、ツマグロヒョウモンのメスもいました。もともと南の方のチョウで、温暖化にともなって北上しているのではといわれていますが、どうでしょう？チョウの仲間ではめずらしく、オスよりメスの方があざやかな目だつもようをしています。

マリゴールドのみつを吸うツマグロヒョウモンのメス。南方系のチョウで、温暖化にともなって北上しているといわれる。オスよりメスがあざやかなもよう。

ビオトープ周辺では、シロツメクサなどにヤマトシジミやベニシジミ、セセリチョウなどが多数見られましたが、皆さんがバッタやトカゲなど、いろいろな動物を見つけてくれたので、うっかり写真にとるのを忘れてしまいました。14号や、23年度42号あたりを参考にして下さい。



ビオトープの木かげで、はねを休めるコミスジ。とまっているフジの葉を幼虫がたべるので、産卵に来たメスかも。

ビオトープのまわりでは、こい茶色に3本の白い線が目立つタテハチョウ科のやや小型のチョウがいました。見ための通りの名で、コミスジ（小三筋）です。木かげではねを休めているように見えますが、とまっているフジなど、マメ科植物の葉を幼虫が食べるので、もしかしたら、産卵に来たメスなのかもしれません。

最後に、スズメガの仲間ですが、ホシホウジャク。ホバリングといってその場で羽ばたきながら、長いストローを伸ばして、みつを吸っていました。

【理科支援員 宮内】



長い口吻を伸ばし、花のみつを吸うホシホウジャク（スズメガ科）。腹部のもようは、ハチに似せる効果があるらしい。